

健康・安全への取り組み

「健康と安全」は企業活動の重要な基盤です。あらゆる側面から健康と安全第一を推進しています。

健康・安全についての考え方

東京エレクトロングループは企業の社会的責任の一つとして、社員やお客さまをはじめ、企業活動にかかわるすべての人が安全に働き、安全に製品を使用し、そして健康であることが重要と考えます。

2010年度は、従来から行っている国内、海外のお客さまの工場での安全巡視活動内容をさらに拡充させました。特に新しく装置を納品する工場においては、お客さまとともに安全設備の設置状況や作業環境の安全性についてチェックシートを用いて確認しています。

当社グループの製品を設置するクリーンルームは、用力などの接続の関係で床部分を開口する工事が伴うため、つまずきや転落などが発生するリスクがあります。そのようなリスクを認識するための意識の向上と、作業現場でのバリケード設置方法などの作業手順を作業者に理解してもらうために、2010年度には台湾で社員約40名にトレーナー養成教育を実施しました。これは当社クリーンルームにおいて、実際の作業状況を再現しながら作業手順や状況に関する対処法を学習するものです。このような現場での作業を想定した安全教育や実技訓練は、各国・各地で行われています。



クリーンルームでの実技訓練

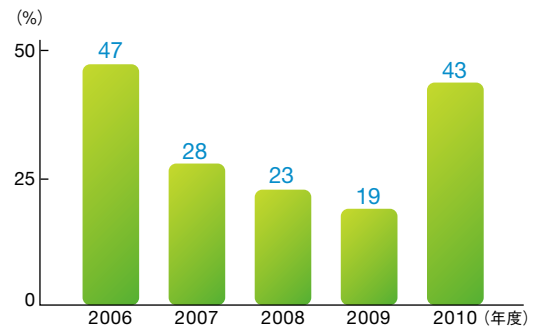
人身事故※1の未然防止

2010年度の当社グループ全体での人身事故の件数(通勤途中、応急処置を除く)は、2009年度と比較して増加しました。その原因としては、急激な市場の立ち上がりによる増産および装置の立ち上げ対応によるものが大きいと推察しています。

2010年度下半期には、事故の増加傾向を抑制するため「非常事態宣言」を発令し、グループ各社社長を先頭に一丸となって事故削減活動に取り組みました。具体的には、安全教育の強化、作業前の危険予知ミーティングの徹底、保護具の着用、安全のルール遵守、エルゴノミクス※2事故防止の強化などを重点カテゴリーとして取り組みました。今後も、作業員への安全教育、作業現場での安全環境の確保、さらに管理監督者による現場安全巡視をよりいっそう強化します。また、新たな取り組みとして、イントラネットを利用した「作業前確認テスト」を開始して、全社一丸となって人身事故災害の撲滅に取り組んでいきます。

- ※1 人身事故：
当社グループで規定した人に係る事故。
米国 OSHA (Occupational Safety and Health Administration) のガイドラインに準じる。
- ※2 エルゴノミクス：
人間の身体的・精神的機能や性質を研究し、それに合わせた機械や環境を設計し、開発する学問や考え方。ここでいうエルゴノミクス事故とは重量物の取り扱い、不自然な姿勢による作業、また、繰り返し作業などによる筋骨格系障害を示している。

人身事故発生率の推移

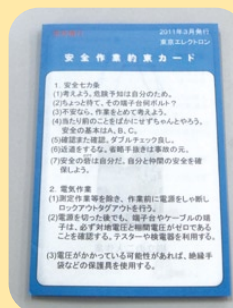


■ 当社グループの人身事故発生率
※人身事故発生率は2000年度を100とする。

TOPICS

安全作業約束カードの作成

安全作業約束カードは、社内やお客さまの工場での作業時に注意・確認すべき内容をまとめた小冊子です。内容は、「安全7カ条」「電気作業」「高所作業」「保護具」などの項目で安全に作業を行うために守るべきルールが記載されています。この冊子は作業員全員に配布され、活用されています。





■ 当社グループの安全教育

2000年7月よりグループ全体で安全についてのコンセプトを共有し、安全教育を進めています。当社グループで働くすべての人を対象に、独自に作成したテキストを利用して基礎安全教育を行っています。クリーンルーム内での技術作業を行う者には、社団法人日本半導体製造装置協会のガイドラインに準拠した教育を行っています。また、安全意識と知識維持のための、更新教育を実施しています。2010年度の「上級安全更新教育」は、2009年度の当社グループの安全実績を鑑みて、エルゴノミクス事故の防止、大型装置にかかわる作業の安全性をテーマとしました。

また2011年度からの新たな試みとして、「作業前確認テスト」を実施しています。これは、従来からお客さま訪問前にお客さまのルール確認・徹底のためイントラネットを利用していましたが、このシステムを活用して、「作業前確認テスト」を開始しました。作業直前に安全ルールを確認することによって、安全作業を実現していきます。



イントラネットを利用した更新教育と作業前確認テスト

■ 映像を用いた教育

重大な事故または重大事故に発展する恐れのある事故などを対象に、3D映像を用いて過去に起きた事故の事例を再現した安全対策教育ツールを活用しています。

半導体/FPD製造装置にかかわる作業を中心に、事故当時の管理体制、当事者の作業に対する負荷状況、コミュニケーションはとれていたかなどを振り返り、高所作業、重量物作業、電気作業、ロボット可動部など

に対するリスク感度を向上させることにより、事故の未然防止に役立てています。



3D映像を用いた教育ツール

■ 安全体感教育の実施

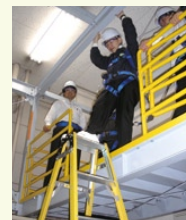
東京エレクトロンFE株式会社では、当社グループおよび当社グループ内で作業する協力会社の従業員に対して安全体感教育を実施しています。多数のお客さまや学校においても本教育を提供しております。2010年7月には、お客さまからのご要望があり約80名に2日間の安全体感教育を行いました。

本訓練は、正しい安全帯の着用方法やロックアウト・タグアウト※3の必要性の講義からはじまり、体感訓練として高所作業時の安全帯の着用や、宙吊り時の身体の負荷の体感、感電体感、薬液の被液体感など、様々なカテゴリで構成されています。危険の疑似体験を通して安全作業の重要性と怖さを会得し、事故防止を推進しています。

※3 ロックアウト・タグアウト:

偶発的にスイッチなどが入ることによる事故を防止するために、鍵などによって作動を不能にすること(ロックアウト)と遮断装置の操作を禁止することを札などによって明示すること(タグアウト)。

体感教育項目	
1	オリエンテーション
2	高所安全帯体感(一本ベルト/ハーネス)
3	飛来物体感
4	スパーク体感
5	電気感電体感
6	薬液飛散体感
7	ロックアウト・タグアウト訓練



高所安全帯体感

TOPICS

腰痛、肩こり予防のためのストレッチ実施

職場あるいは業務以外による腰痛や肩こりへの対策の一つとしてストレッチセミナーを実施しています。肩こりや腰痛などの報告が増える中、特に腰痛に関する報告は多く、そのほとんどが物を持ち上げたり、屈んだりといった作業中に発症しています。2010年度は、腰痛や肩こりで悩んでいる社員に向けて怪我の予防、ストレス発散、健康増進を目的としたストレッチセミナーを開催しました。講師には、健康指導の専門家、ピラティス、ヨガインストラクターの先生をお招きし、真剣にかつ楽しく取り組みました。

